

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
71

振興協議会だより

【発行日】令和7年2月28日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



第10回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト結果発表

1月29日(水)、記念すべき10回目となる苗場山麓ジオパークフォトコンテスト審査会を栄村役場にて行いました。写真家やガイドなど審査員8名により、応募作品全245点の中から最優秀賞、各部門賞、各スポンサー賞が選出されました。入賞作品の結果は苗場山麓ジオパークのホームページ(<https://naeba-geo.org>)でご覧いただけます。

次回も皆様からのご応募を心からお待ちしています。



結果発表



最優秀賞「閃光」 下 育郎



春部門「春の日差しの中で」 久保田 真一



夏部門「絶景」 小黑 昇一



学生部門「ジャンプ!」 池田 結衣



秋部門「光射す」 蕪木 佳子



冬部門「初冬の溪谷」 村山 博



糸魚川・佐渡・白山手取川ジオパークの小学校と津南小学校が交流学習を行いました

12月4日(水)、3回目となる新潟圏域3ジオパーク(糸魚川・佐渡・苗場山麓)の子どもの交流学習をオンラインで開催しました。圏域では糸魚川・下早川小、佐渡・小木小、苗場山麓・津南小、圏域外から白山手取川ジオパーク・明光小が参加し、各ジオパークの特色ある活動についての紹介と各校からの質問に答えるという形式で進められました。

苗場山麓からは津南小4年生が栄村の保存民家の阿部家や古型マンモスの臼歯発見のジオサイト、切明の川原の温泉などを他のジオパークの子どもたちに学習班ごとに発表しました。子どもたちは自校の発表や他の学校の発表を聞く中で、他の地域のお宝を発見するとともに、着実に「ふる里に自信と誇りを持つことができた。」と感じたところです。

元々は、新潟圏域の大人の認定ガイドの意見交換会が母体で、「時代を担う、子どもたちの交流があったらいいね。」という発想から始まったものです。圏域のみならず、周辺のジオパークの子どもたちとの交流に発展していくことは、ジオパークの持続に欠かせないものです。



Mine 秋吉台ジオパークとオンラインで交流！

Mine 秋吉台ジオパーク(山口県美祢市)では、大地の恵である約2億年前の植物がもととなった大嶺炭田があることから、石炭を使った焼き芋イベントを毎年開催しています。日本のジオパークと連携し、さつまいもを取り寄せ、現地と中継して、さつまいもが育った大地についての説明や、味の違いを楽しみながら焼き芋の食べ比べを行っています。

昨年、Mine 秋吉台ジオパークが日本ジオパークの再審査を受けた際、現地調査員が、「苗場山麓のシルクスイートは寒暖差が大きいことなどから、おいしい。」と話をされたことで、今年は苗場山麓ジオパークのさつまいもがMine 秋吉台で食されることになりました。

既に収穫時期が過ぎていたので、作業風景などは中継できませんでしたが、津南町で動画制作を行っているかたの、以前撮ってあった動画を交えながら、最後は苗場山麓の大地についても説明し、中継は無事終了。中継の難しさやお客さんに楽しんでもらう演出など、大変勉強になりました。←甘党農家やチダヤサイの収穫風景は「つなすみチャンネル」でぜひご覧ください！



【お問い合わせ】

苗場山麓ジオパーク推進室 電話 025-765-1600



いざ、本番！ちゃんと伝わったか緊張しました



大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク認定商品ご紹介～



【苗場そば(ジオパークパッケージ)】

津南観光物産館 ※こちらでお求めいただけます

〒949-8202 津南町大字芦ヶ崎乙203番地

☎025-765-5008 営業時間 9:00～17:30

定休日：水曜日 オンライン販売：なし

ジオストーリー

寒暖に恵まれた環境で育ち、水はけの良いジオの大地で成長する蕎麦は香りの良い上質な実が収穫できます。冬が近づく晩秋の暖かい日に刈り上げ、ふのりを使用した伝統製法により丁寧につくりあげました。恵まれた環境から作りあげたお蕎麦を苗場山麓の自然を感じながらお楽しみください。

※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。

【お問い合わせ】津南町役場観光地域づくり課 電話 025-765-5454



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

石沢 久和さん



牧之の旅から 200 年（ガイドナンバー 70 石沢 久和さん）

塩沢の文人・鈴木牧之（1770-1842）は文政 11 年（1828 年）に、当時すでに町場とは異なる風習を持つとみられていた秋山郷を旅し、その後 3 年かけて『秋山記行』を執筆したとされています。残念ながら牧之の存命中には発刊されませんでした。もし発刊されていれば、『北越雪譜』と並ぶベストセラーだったかもしれません。

秋山郷の珍しい風習や景観を、絵と文章で克明につづった貴重な資料からは、今から約 200 年前の秋山郷の姿をリアルに学ぶことができます。

牧之は道中の景観を絶賛していますが、旧暦 9 月 8 日から 14 日（新暦 10 月 16 日から 22 日）の 7 日間はちょうど紅葉の盛りだったと思います。

牧之が秋山郷を旅したのは 59 歳でした。私は今年 57 歳ですが、「今より道路状況も厳しいだろう秋山郷の道を寒さ厳しい 10 月に 1 週間歩く気力はないなあ」と、牧之の体力と好奇心に感嘆するばかりです。

ガイドとして秋山郷の案内をさせていただく機会も多いのですが、話のネタとして秋山記行からたくさん引用しています。例えばハウソウの高札や、大赤沢の藤ノ木老のぼやき、黒駒太子、アミゴロモ、秋田マタギ、甘酒村などなど、延々と続く山路も、時間が足りないくらいです。そしてその一つひとつのエピソードが、ジオパークで学んだ知識と結びつくとき、その背景がさらに理解でき、ガイド話に深みが出ると感じています。

私事です。4 軒の古民家が立ち並ぶ見倉集落で、築 200 年以上の古民家を縁あって管理しています。はっきりとした証拠はないのですが、秋山記行の中で、牧之が見玉から小赤沢に向かう途中で見倉集落で家に入って昼食を食べた記述と当時の家の絵があり、その家ではないかと考えています。この古民家は今年の春に交流拠点にできればと準備しています。

さて今年 2025 年は秋山郷の入口に津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」が誕生しますが、その一角には秋山記行の紹介もされるようで、牧之ネタもさらに使いやすくなるでしょう。

そして 3 年後 2028 年は牧之が秋山郷を旅してちょうど 200 年の節目です。個人的には何らかの観光プロモーションも必要ではないかと思っており、今から何ができるか皆さんと一緒に考えていければと思います。



古民家（見倉集落）



津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」

お知らせ

4月20日(日) 14:00～16:30 認定証授与式・ガイドの会総会 **場所:**津南町総合センター ※大勢で参加ください!!

4月25日(金) 18:30～20:00 2025(令和7)年度の講座の紹介ほか **場所:**津南町総合センター



突撃しよう！となりのジオ便り～四国西予ジオパークからこんにちは～

四国西予ジオパークは愛媛県西部に位置し、海を隔てて大分県が見える海岸域から高知県境の四国カルストまで、東西約 50 キロに渡って細長く広がる西予市全域をその範囲としています。

西の宇和海沿岸部は温暖な気候で、一面に「リアス海岸」が広がり、波の穏やかな湾内を利用した養殖業がさかんです。海沿いの畑には、海からの照り返しも加わった太陽の光をいっぱいに浴びた美味しいミカンが育っています。その中でも石灰岩を使った白くて見事な段々畑がある狩浜地域は、2019 年に「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」として国の文化的景観に選定され、季節によってはみかん狩り体験なども楽しめます。

一方、東端に位置する大野ヶ原地域は、3 億年ほど前のサンゴ礁が 1,400m も上昇したカルスト高原で、冬にはたびたび銀世界になります。積雪が 1m を超えることも珍しくありませんが、そこには戦後の開拓で生まれた四国カルスト唯一の集落が存在し、なだらかな地形や冷涼な気候を最大限に活用した農業や酪農が営まれています。

市の中心部は、標高 200m 付近に広がる「宇和盆地」の中にあります。古くから四国西南部の穀倉地帯として栄え、古墳や歴史的建造物も数多く、「卯之町の町並み」は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

さらに、四国西予ジオパークには主に古生代の大陸に起源をもつ日本最古級の岩石や化石を含む地層が顔を覗かせています。西予市が基準地となっているそれらは「黒瀬川帯」と呼ばれ、須崎海岸や三滝溪谷で見ることができます。

「四国山地と宇和海が育んだ海・里・山—4 億年の物語」をテーマに掲げる私たちのジオパーク最大の特徴は地質・地形と自然、生活文化の多様性です。2022 年には「四国西予ジオミュージアム」がオープンし、それらをわかりやすく紹介していますので、情報を仕入れてから現地へ出かけ、ガイドさんたちと交流していただくと西予ジオパークを満喫できることは間違いありません。ただ、公共交通だけで訪問できるサイトが少ないため、レンタカー等の利用がおすすめです。



みかんと石灰岩の段々畑



須崎海岸（4億年前の地層）



宇和盆地とわらぐろ



卯之町の町並み（重伝建地区）



令和 7 年秋期開館予定・津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」について

津南町埋蔵文化財センターの主な機能は、土器などの出土品、記録図面などの埋蔵文化財に関わる収蔵保管です。また、古文書や町に寄贈された絵画なども収蔵する予定です。農と縄文の体験実習館「なじょもん」と合わせて、機能を分散して、より苗場山麓を学んでいただくことが出来る施設となります。この施設を見学した後、展示で紹介された史跡沖ノ原遺跡や龍ヶ窪へと行くことができます。さらに、中津川上流の秋山郷へと誘う仕組みを今後、展開できればと思います。

苗場山麓ジオパークの拠点施設のひとつとして多くの人が集い、エリア内を周遊するための起点となるよう施設の準備を行っています。